

千代人権福祉センターだより

〒731-0303

安芸高田市八千代町佐々井 1329

2016年9月発行

電話・お太助フォン 52-7500

古来から「八」という漢字は「末広がり」のおめでたい漢字と言われてきました。

そういった漢字を持つ八千代人権福祉センターは

「人のつながり」と「人権を大切にする思い」を“末広がり”で広げていきます。

「排泄ケアが暮らしを変える」 ～一人ひとりの豊かな生活のために～

「むつき庵」代表 浜田きよ子さん

「実際にオムツを装着して、歩きにくさなど感じられ、いい体験になります。どのようにしたら、自分らしく生きていけるか、安易にオムツにすればいいという事ではなく、本人の希望、本人らしく生きていけるようケアしていくことが大事だと思った。」（アンケートより抜粋）

右は、7月5日に開催した在宅介護応援セミナーに参加された方の意見です。このセミナー講師の浜田きよ子さんは、高齢生活研究所・排泄用具の情報館『むつき庵』の代表を務めている方です。

浜田さんは、こう話しさ始めました。
「人は老いて介護を受けるようになつても、最後まで自分らしく生きたいと願います。ですが、その人らしい生活の質を確保しようとなれば、日々の快適な排泄を抜きにはありえないんですよ。

私はこの見えないバリアを突き破ろうと、おむつなど排泄用具にこだわり続けてきました。おむつといえどとにかく漏れないようにどういう機能重視意識が強く、使われる側の心地よさとかに関心が向いてなかつたんです」。

そして浜田さんは続けます。

「そこでおむつを接点にして、作る側、使う側、使われる側の相談に乗りながら

アドバイスする場所、集まつた情報が生활の質を確保できる製品、作りやよりよい使い方に反映できる排泄用具の情報館が必要だと考えました。その結果が2003年にオープンした『むつき庵』です。介護士さんや看護師さんに排泄用具に関する知識が不足している。これではおむつを当たられる側はたまつたものではありません。自分がおむつにこだわり続けて蓄積した知識を伝えるネットワーク作りが必要だと痛感しました。それで2004年におむつフィッター研修を始めました。

おむつや排泄用具のきちんとした使い方を教える場所がこれまでなかつたんですね」。

講演の最後に浜田さんは――

「介護現場でもおむつのことで困っているんだなということを、あらためて実感しています。それに研修を終えた人の中から自分が住む地域でも、新たな『むつき庵』を作りたいという希望が多く出されたんです。今では全国に、13ヶ所の『ミニむつき庵』が誕生しています。私がやつてていることが必要とされていると、気持ちを強くしました」と結びました。

最後に、市内の人権会館・人権センターに勤務している相談員と指導員が、前述のおむつフィッター研修に参加する予定です。既に3級の資格を取得された指導員もいます。

将来的に安芸高田市に『ミニむつき庵』が誕生するのも遠い話ではないかも知れません。

